

## 特別展 ルーヴル美術館の銅版画展

八王子市夢美術館（八日町8） 24.06.28～09.01



フランス・パリの「ルーヴル美術館」は、美術の教科書に載っている名だたる名画が数多く展示されているが、その中でもグラフィック・アート部門の一角を担う「カルコグラフィー室」の存在はあまり知られていないのが現状である。この「カルコグラフィー」は、ギリシャ語で「銅（カルコス）に描いたもの」という意味で、ルーヴルでは銅版画とそのコレクション

を原版とともに保存をし、それをもとに版画を刷る場所を意味している。

「カルコグラフィー室」の歴史は、古く14世紀に「太陽王ルイ14世」が、壮麗なイベントや王宮などの建築物、芸術作品、植物図鑑などの学術研究を銅版によって、記録することを奨励したことに始まるとされている。

本展では、「ルーヴル美術館のカルコグラフィー室」の約13,000点の中から、日本での特別公開のために、当時の版を用いた「銅版画100点あまり」を展示していて、知られざる「ルーヴル美術館のカルコグラフィー室」を通して、フランスさらにはヨーロッパの文化や歴史を身近に感じることができる。

ジャック・リゴー 《ルーヴル旧館正面の眺め》 上図展覧会チラシ



ラファエロ・サンツイオ 《美しき女庭師》 左  
レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン 《ベレー帽を被った自画像》 中  
アメデオ・モディリアーニ 《イタリアの女》 右